

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00691

研究課題名（和文）平和を目指す日本語教育における内容言語統合型学習（CLIL）の効果検証と実践支援

研究課題名（英文）Effectiveness verification and practical support of Content and Language Integrated Learning (CLIL) in Japanese language education aiming for peace

研究代表者

奥野 由紀子 (Okuno, Yukiko)

東京都立大学・人文科学研究科・教授

研究者番号：80361880

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、内容言語統合型学習（Content and Language Integrated Learning、以下CLIL）の指導原理に基づき、平和な世界の実現を目指すテーマ（「PEACE」）に焦点をあてた授業実践を行った。そして、第二言語を使用する学習者の言語能力、2)内容理解、思考力、協学/異文化理解の発達過程とその要因について検討した。

さらに、教師のスキヤフォールディングやフィードバックの分析、柔軟な評価方法の検討に基づき、CLILの教材開発と教師向けのガイドブックを開発・出版した。また、国内外で講演や教師研修を行いCLIL実践をより効果的に行うための手助けを提供した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、CLILを通じて言語習得だけでなく、内容理解や思考力の発展、異文化理解の促進を図ることで、より豊かな学習体験が提供し得る可能性を示した。

さらに、教師向けの教育支援や教材開発を行ったことにより、CLILの認知度を高め、CLILの実践をより効果的に行うための手助けを提供した。

この成果は学術的にも社会的にも重要であり、言語教育の可能性を拡げ、平和な社会への構築へ貢献することができた。

研究成果の概要（英文）：In this research, we conducted classroom practices focusing on the theme of achieving a peaceful world, based on the principles of Content and Language Integrated Learning (CLIL). We examined the developmental processes and factors related to language proficiency, content comprehension, critical thinking, cooperation/intercultural understanding among second language (L2) learners.

Furthermore, we analyzed teacher scaffolding and feedback, and explored flexible assessment methods.

Based on these findings, we developed and published CLIL teaching materials and a guidebook for teachers as specific educational support measures for Japanese language education. Moreover, we conducted numerous lectures and teacher training programs both domestically and internationally, aiming to provide assistance in implementing CLIL practices effectively.

研究分野：応用言語学・日本語教育学

キーワード：内容言語統合型学習（CLIL） 言語習得 思考力 協学 異文化理解 平和（PEACE） スキヤフォールディング トランスランゲージング

## 1. 研究開始当初の背景

内容と言語を統合的に学習するアプローチである CLIL は EU が提唱する複言語主義、言語と文化の多様性の保全、多言語主義を促進するための政治的、経済的必要性から要請を受けて形成されたものであり、言語スキルの向上だけでなく、内容知識、思考力、コミュニケーション能力の発達を促進させ、異なる言語や文化の多様性を尊重し、多言語主義を推進することも重要な要素とされる。研究開始当時、CLIL は、英語教育においてはすでに盛んに取り入れられていたが未だ日本語教育においては CLIL の教育理念に基づいて体系立ててなされた実践や研究はほとんどなかった。そのような中、研究代表者は、留学生を対象として「PEACE」(縫部, 2009) を内容とした日本語教育を実践していた。「PEACE」とは、縫部(2009)が日本語教育による平和貢献のために提唱した概念であり、「P: Poverty 貧困からの脱却」「E: Education 教育」「A: Assistance in need 自立のための援助」「C: Cooperation & Communication 協働と対話」「E: Environment 環境」という5つの内容を含むものである。これらの授業のコンセプトや教材を本研究の分担者達と共有し、3大学において実践を開始したところであった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、内容言語統合型学習 (CLIL) の指導原理に基づき、平和な世界の実現を目指すテーマ「PEACE」に焦点を当てた日本語教育の実践を行い、実践を通じて、学習者の言語、内容、思考、協学 (4Cs) の各側面の発達過程を検証し、CLIL 授業が学習者の成長にどのような影響を与えるのかを評価することである。さらに日本語教育における CLIL の具体的な教育支援策を探求し、効果的なカリキュラムや教材の構築に取り組み、研究成果を広く発表し、国内外の学会や研究会で研究発表を行い、CLIL の実践の成果や可能性を共有することである。そして、CLIL の理念や方法についての啓蒙活動を行い、教師や教育機関の支援を促進し、実践の結果や教師の役割について考察し、CLIL の効果と将来の展望について理解を深めることを目指す。

## 3. 研究の方法

研究の方法は主に以下の5つの側面から重層的に行い、実践と研究の往還を行った。

CLIL の理論的検討を行い、研究レビューを行う。

学習者の発達過程を検証し、日本語教育における CLIL 授業の具体的な教育支援策を探るために CLIL に基づいた「PEACE」プログラムの実践を主に国内外の大学生を中心にを行いデータを収集、蓄積する。

CLIL の4Cs: 内容 (Content), 言語 (Communication), 思考 (Cognition), 協学 (Community) に即して学習者、実践者、観察者の観点から協働で、実践内の教室談話や教師のスクリーンタイムやフィードバックの分析、学習者の提出物の分析、評価方法などを分析し、検討を行う。

実践の分析による研究結果を踏まえた、カリキュラムの構築、教材の開発を行う。

研究成果を国内外の学会等で発表し、実践や教材開発の成果を教科書や教師用指導書として出版し、実践を希望する国内外の教育機関において教師研修等を行う。

## 4. 研究成果

研究期間中、内容言語統合型学習 (Content and Language Integrated Learning, CLIL) の指導原理に基づき、平和な世界の実現を目指すテーマ「PEACE」の授業実践を行った。この実践では、言語、内容、思考、協学 (4C) の各側面に関する学習者の発達過程を検証し、日本語教育における CLIL 授業の具体的な教育支援策を探った。

実践は初中級から上超級までのコースで行われ、授業の実施と観察を通じてデータ収集が行われました。授業後には振り返りも行い、協働で授業分析を行った。学習者の成果物やポートフォリオ、教師や実習生による観察やレポートなども分析し、4C を意識した活動がどのように取

り入れられたか、どのような取り組みが行われたか、授業実践における課題や学習者の成長について分析した。また、授業中のディスカッションや発表の録画データ、成果物、授業後の振り返りやインタビュー、参与観察ノートなどから、CLIL 学習者の言語面や思考面の変化が可視化され、分析された。特にトランスランゲージングに着目し、対話と思考の深まりについて考察した。さらに、教師の指導の介入（スキャフォールディングやフィードバック）の分析も行われ、教師の役割についても考察した。

研究成果は国内外の学会などで発表し、論文として投稿した。また、雑誌『第二言語としての日本語の習得研究』に特集が組まれ、レビュー論文を発表した。さらに、こどもの日本語教育学会でのパネリストとして参加し、小学校の教員たちと CLIL の可能性について検討したり、英語での CLIL 実践者が参加する学会で日本語教育の実践を共有し、言語を越えた CLIL 実践の交流を深めるなど、日本語教育だけにとどまらない研究交流を行なった。さらに、大学の教師養成講座や地域の日本語教室のボランティア養成講座、学会や研究会での講演や教師向けのワークショップも積極的に行われ、広く啓蒙活動を行なった。CLIL 日本語教育勉強会も立ち上げ、CLIL 体験をするワークショップを開催するなど、さまざまな取り組みを行なった。

さらに、CLIL の理念や具体的な方法についてわかりやすく書かれた入門書『日本語教師のための CLIL 入門』（凡人社）を執筆し、出版した。また、内容言語統合型学習（CLIL）に基づいた PEACE プログラムの中で「P: Poverty 貧困からの脱却」をテーマにした中上級のコースについて、これまでの実践成果をまとめ、『日本語×世界の課題を学ぶ 日本語で PEACE [Poverty 中上級]』（凡人社、2021 年 8 月）という中上級向けのテキストとして出版した。さらに、CLIL 実践を行う教師をサポートするための教師用ガイドブックも作成した。このガイドブックには実際の学習者や実践者の声、スキャフォールディングの例などが取り入れられ、実践内容が想像しやすいよう工夫した。

コロナ禍の中では、対面の実践や CLIL を用いた教育実習が制限されたが、オンラインでの CLIL 実践やベトナムのハノイ工業大学との連携による CLIL 海外実習などが行われ、実習生や学習者の変容について観察や分析を行った。また、在日シリア人に対してオンラインで CLIL の支援が行われるなど、コロナ禍での特別な支援や実践を試した。

対面授業が再開されると、ソフトクリルの教育実習が行われ、CLIL 的な教え方についての方法を検討した。また、大学初年次教育においても CLIL を導入し、移民や難民問題をテーマにした実践が行われ、教師の役割について考察した。さらに、延期になっていたベトナムのハノイ工業大学や日越大学への訪問が実現し、当事者性を育む教育に焦点を当てた対面での CLIL 教師研修も行った。

研究期間を通じて、平和を目指す日本語教育の実践を継続し、CLIL の効果を内容・言語・思考・協学の 4 つの側面から多角的に検証したと言える。多くの学会や研修会でワークショップや講演を行い、日本語教育における CLIL の実践理解を深め、実践支援につなげるとともに、言語教育の可能性を広げ、平和な社会を構築する人材の育成に貢献することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 奥野由紀子	4. 巻 517-7
2. 論文標題 「日本語L2使用者の陳述副詞のスタイル変化 - 縦断的な発話データからの考察 - 」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『人文学報』第517-7号, 東京都立大学都市教養学部人文・社会系 東京都立大学人文科学研究科	6. 最初と最後の頁 11-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 元田静・奥野由紀子	4. 巻 24
2. 論文標題 「日本語CLIL授業における学習者の思考の深化過程 - ディスカッションにみられるキーワードと視点からの考察 - 」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ヨーロッパ日本語教育	6. 最初と最後の頁 362-373
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 元田 静	4. 巻 8
2. 論文標題 中級前半の日本語学習者を対象とした「食べ物」読解 読解の練習からCLIL授業につなげる試み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東海大学大学院日本語教育学論集	6. 最初と最後の頁 18-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 奥野 由紀子・呉 佳穎	4. 巻 516-7
2. 論文標題 「初中級における世界の食や環境をテーマにしたCLIL実践 言語・認知的負担に配慮したコースデザイン」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『人文学報』	6. 最初と最後の頁 21-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 小林明子・奥野由紀子	4. 巻 22
2. 論文標題 「内容言語統合型学習（CLIL）の実践と効果 日本語教育への導入と課題」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『第二言語としての日本語の習得研究』	6. 最初と最後の頁 29-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 奥野由紀子	4. 巻 22
2. 論文標題 「内容 + 言語」の教育と習得 - 序にかえて -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『第二言語としての日本語の習得研究』	6. 最初と最後の頁 5-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計26件（うち招待講演 15件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 奥野由紀子
2. 発表標題 「内容と言語を統合する学び 教材との関連から」
3. 学会等名 子どもの日本語教育研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 奥野由紀子・神村初美・趙キン・姫宇禾・陳永梅・エネザンバラ
2. 発表標題 「内容言語統合型学習（CLIL）によるオンライン海外実習の試み」
3. 学会等名 日本語教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奥野由紀子
2. 発表標題 「日本語教師のためのCLIL入門－理論と実践－」
3. 学会等名 お茶の水女子大学国際教育センター主催公開講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奥野由紀子・小林明子・佐藤礼子・元田静・渡部倫子
2. 発表標題 「CLIL教科書『日本語でPEACE』を使った実践例」
3. 学会等名 第1回J-CLIL Japanese 学習会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奥野由紀子・元田静
2. 発表標題 「日本語CLIL授業におけるディスカッションの分析 - 思考の深化に着目して - 」
3. 学会等名 日本CLIL教育学会第20会例会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奥野由紀子
2. 発表標題 「日本語教師のためのCLIL入門 - 理論と実践 - 」
3. 学会等名 公益財団法人日本台湾交流協会2020年度第3回日本語教育研修会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奥野由紀子
2. 発表標題 「CLILの理論と実践」
3. 学会等名 第51回アカデミックジャパニーズグループ定例研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奥野由紀子・佐々木瑞枝・西口光一・松田真希子・門倉正美・佐々木良造・吉川達
2. 発表標題 「何のための多読？すぐれた多読学習材とは？ - 知的好奇心を刺激する多読学習材をめざして - 」 「現代社会再考プロジェクト」
3. 学会等名 現代社会再考プロジェクト 公開パネルディスカッション
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本Sturt 洋子・奥野由紀子・笹島茂
2. 発表標題 「日本語教育と英語教育と多言語多文化教育」
3. 学会等名 日本CLIL教育学会第3回大会 シンポジウムパネルディスカッション（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奥野由紀子
2. 発表標題 「魅力ある日本語教員養成課程の充実に向けて - 日本語教育の視点を持った人材の育成 - 」
3. 学会等名 四国大学日本語教員養成課程検討・実施委員会主催研修会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 元田 静
2. 発表標題 中級前半の日本語学習者を対象とした「食べ物」読解 CLIL授業の試み
3. 学会等名 第19回臨床教科教育学セミナー
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奥野由紀子・佐藤礼子・渡部倫子・阿部新
2. 発表標題 「内容言語統合型学習(CLIL)に基づいた PEACE プログラムの構築 異なる日本語レベルとテーマによる実践 」
3. 学会等名 International Conference on Social, linguistic and Human Mobility and Integration, EJHIB2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 元田 静・奥野由紀子
2. 発表標題 「日本語CLIL授業における学習者の思考の深化過程 - ディスカッションにみられるキーワードと視点からの考察 - 」
3. 学会等名 The 23rd Japanese Language Education Symposium in Europe (AJE) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥野由紀子
2. 発表標題 「CLIL授業において学習者の思考はどのように深まるのか - トランスランゲージングからの考察 - 」
3. 学会等名 韓国日本語教育学会 第36回冬季国際学術大会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 奥野由紀子
2. 発表標題 「日本語教育における多様な学習者に対するCLILの可能性」パネルテーマ「英語以外のCLIL実践について考える 多言語多文化への対応」
3. 学会等名 日本CLIL (J-CLIL) 教育学会第2回大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥野由紀子
2. 発表標題 「平和の実現を目指す日本語教育実践 - 初中級での内容言語統合型学習(CLIL)」
3. 学会等名 3rd International Conference on Japanese Language Education, Literature and Culture, (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥野由紀子
2. 発表標題 「第二言語習得の視点から考える内容言語統合型学習(CLIL) - 平和の実現を目指す日本語教育実践を通して - 」
3. 学会等名 国際言語文化学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥野由紀子・呉 佳穎
2. 発表標題 「CLIL初中級クラスにおけるコースデザインの試み 言語・認知的負担への考慮」
3. 学会等名 2019年度日本語教育学会春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥野由紀子
2. 発表標題 「個を軸にした初級から上級への成長」
3. 学会等名 第一回日本語プロフィシェンシー研究学会国際大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥野由紀子
2. 発表標題 「日本語教師のためのCLIL入門 理論と実践例の紹介 」、「日本語教師のためのCLIL入門 ワークショップ編 ）」
3. 学会等名 学校法人長沼スクール東京日本語学校夏季集中セミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林明子
2. 発表標題 内容言語統合型学習（CLIL）による中上級日本語授業の実践と課題 ）」
3. 学会等名 韓国日語教育学会第36回冬季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥野由紀子
2. 発表標題 平和な社会を実現するための日本語教育実践と教師の役割 シリア人学習者在籍クラスの実践例
3. 学会等名 シンポジウム「政治教育、平和教育、そして、日本語教育へ - ドイツの実践例を中心に - 」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村田裕美子
2. 発表標題 「「対話」でつなげる日本語教育 - ナチスの歴史を題材として - 」
3. 学会等名 シンポジウム「政治教育、平和教育、そして、日本語教育へ - ドイツの実践例を中心に - 」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥野由紀子・佐藤礼子
2. 発表標題 教材におけるスキヤフォールディングと教師によるスキヤフォールディング - CLILによる日本語教材開発に向けて -
3. 学会等名 日本CLIL教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奥野由紀子・元田静・村田裕美子・森山新
2. 発表標題 平和な社会を実現するための日本語教育実践と教師の役割 - 日本・ドイツ・韓国の大学における異なる学習環境に応じたトピック選択 -
3. 学会等名 ヴェネツィア2018年日本語教育国際研究大会(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村田裕美子
2. 発表標題 「未来につなぐナチスの歴史を題材にした日本語教育実践と教師の役割 - 中級学習者のための授業実践 - 」
3. 学会等名 ヴェネツィア2018年日本語教育国際研究大会(国際学会)
4. 発表年 2019年

## 〔図書〕 計3件

1. 著者名 奥野由紀子・小林明子・佐藤礼子・元田静・渡部倫子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 凡人社	5. 総ページ数 160
3. 書名 日本語×世界の課題を学ぶ 日本語でPEACE Poverty:中上級	

1. 著者名 奥野由紀子・小林明子・佐藤礼子・元田静・渡部倫子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 凡人社	5. 総ページ数 115
3. 書名 日本語でPEACE CLIL実践ガイド	

1. 著者名 奥野 由紀子、小林 明子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 凡人社	5. 総ページ数 159
3. 書名 日本語教師のためのCLIL(内容言語統合型学習)入門	

## 〔産業財産権〕

## 〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	元田 静  (Motoda Shizuka)  (40349428)	東海大学・国際教育センター・教授    (32644)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡部 倫子  (Watanabe Tomoko)  (30379870)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授   (15401)	
研究分担者	佐藤 礼子  (Sato Reiko)  (30432298)	東京工業大学・リベラルアーツ研究教育院・准教授   (12608)	
研究分担者	小林 明子  (Kobayashi Akiko)  (40548195)	島根県立大学・総合政策学部・准教授   (25201)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	村田 裕美子  (Murata Yumiko)	ミュンヘン大学	
研究協力者	屋根橋 伸子  (Yanehashi Nobuko)	東亜大学	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------